

### 3 地中から聞こえる不気味な声

## タゴガエル

下山 良平

#### タコではなくタゴ

タゴガエルの「タゴ」は、戦前の両生類学者・田子勝弥氏にちなんで付けられた名前です。和名だけでなく学名のラナ・タゴイ（田子氏のアカガエルという意味）にも、田子さんの名前が使われています。

#### 一見普通のアカガエル

タゴガエルは、体長30～58mmほどの赤褐色のカエルで、おもに標高1000～2000mほどの山地に生息します。一見、普通のアカガエル（＝ヤマアカガエル）に似ていますが、本種の方が扁平な体型であること、水かきの発達が悪いことで区別できます。また、ヤマアカガエルではのどにゴマ粒大の黒斑が数個あるのに対して、本種ではのどから腹部にかけてコショウをまぶしたように細かな黒点が密に見られることでも区別できます。

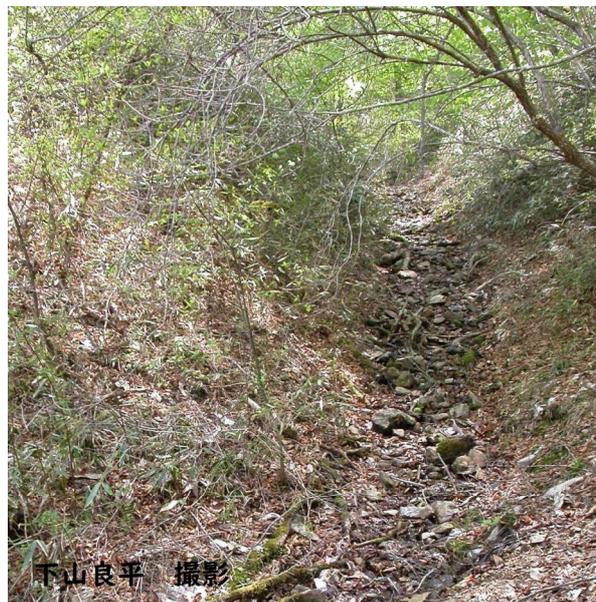


伏流から見つけ出したオス

上伊那では、杖突峠から入笠山にかけての一带、三峰川上流域や横川溪谷、飯島町のシオジ平自然園など、各地で確認されています。また、中央アルプス主稜線の木曾殿越付近（標高2500m）での確認例もあります。

#### 地中で繁殖活動

上伊那でのタゴガエルの繁殖期は、4月中旬から5月中旬頃です。この時期、オスたちは山間の小渓流の縁にある岩の隙間や地下を流れる伏流水中に集まり、盛んに鳴き交わします。鳴き声にはいくつかのレパートリーや地域変異があるらしく、ゲーゲーと聞こえたり、キュッ・キュッと聞こえたり、時にはキャン・キャンと聞こえたりもします。



伊那市長谷の繁殖地

産卵も同様な場所で行われるため、カエルそのものも卵塊も決して外から観察することはできません。ですから、オスが鳴いている辺りの岩をそっと起こして探すしかありません。卵塊は岩の下面に産み付けら

れます。一つの卵塊には、直径3mmほどの白っぽい卵が30～160個ほど含まれます。他のカエルと比べると、著しく大卵少産です。



岩の下面に産みつけられた卵塊



卵塊のアップ

### エサを食べないオタマジャクシ

卵から孵化したオタマジャクシは、全身が白っぽく、そのまま伏流水の中で生活します。驚くべきことに、オタマジャクシは何もエサを食べることはなく、卵黄の養分を消費するだけで子ガエルへと変態します。

タゴガエルの産卵特性は、「白っぽい卵」＝オタマジャクシの栄養となる卵黄が多く含まれる卵、「大卵少産」＝卵黄を多くすることで卵サイズも自ずと大きくなり、その分卵数は減少せざるを得ない、とい

うトレードオフの上に成り立っているわけです。

変態を終えたばかりの子ガエルは、体長が7～10mmで、米粒ほどの大きさしかありません。子ガエルは、水辺を離れて周囲の林床へと分散していきます。そして、小さな昆虫やクモなどを食べて成長し、2～3年かけて成熟します。